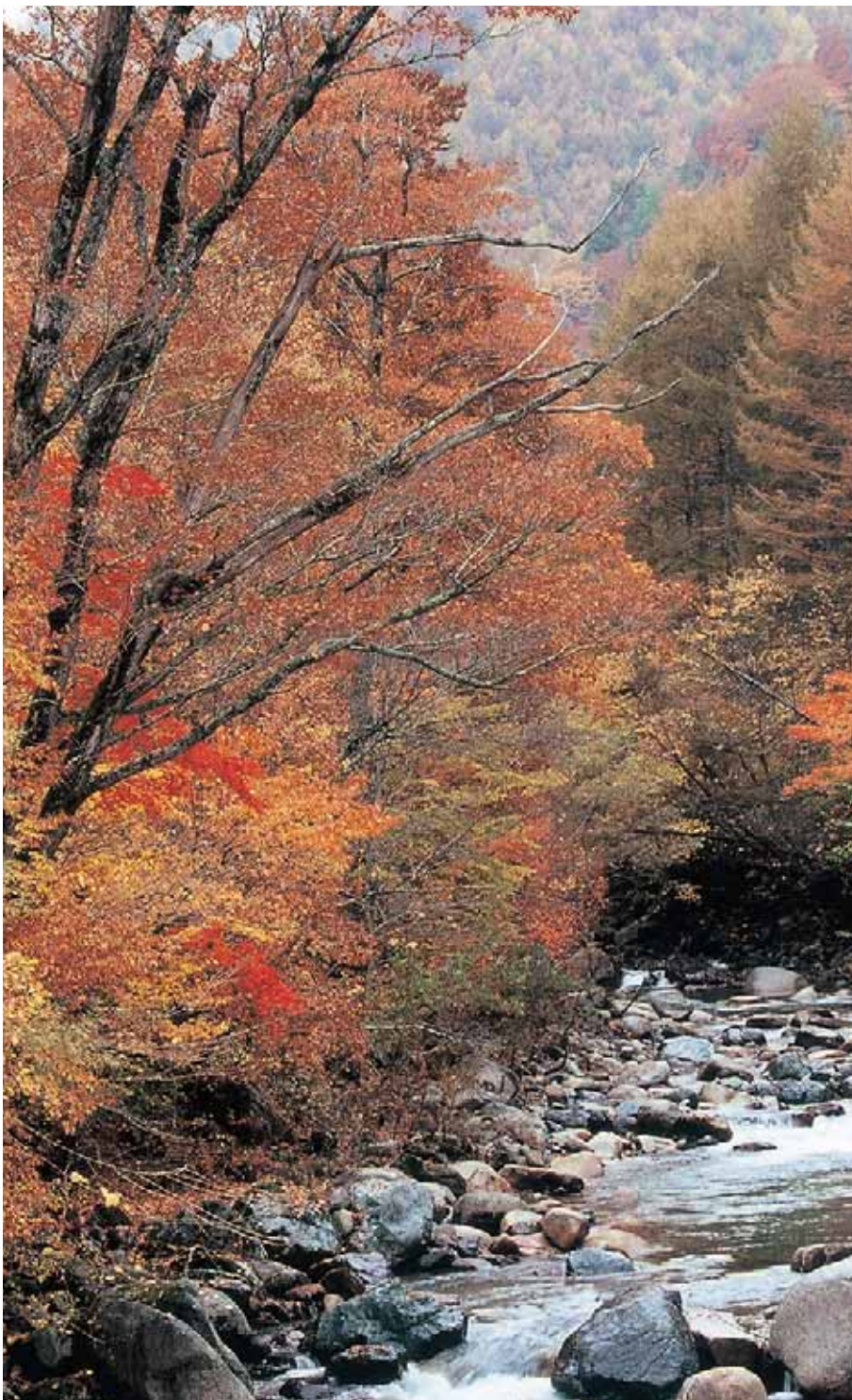


紅葉前線南下

農作物の収穫も済み、紅葉の季節となりました。紅葉は日中の温度差が大きいため、今年ほど早く始まります。今年九月の高温により、例年

より一週間遅れとなりましたが、山々は色鮮やかに染まり深まる秋を表現しています。紅葉前線とは、紅葉の進む様子を地図上に表したもので、カエデの南下する速度は、一日約二十七km、およそ五十日で日本列島を

南下するそうです。組合事業も上半期を終了しましたが、概ね計画通り進捗しております。また、念願の新那須高原CS・支所の起工式を行い、来年五月完成に向け始動しました。



那須高原CS・支所起工式 来年五月めざし始動

新那須高原クーラーステーション及び支所建設起工式を九月二十九日、黒磯市の建設敷地で行いました。

式には、地元黒磯市の栗川市長始め、郷間那須農政事務所長、立壁大田原林務事務所長、神辺県畜産振興課副主幹が臨席され、組合役員と施業者合わせて五十名が出席しました。



前田組合長による鍬入れ

神事は黒磯神社、月江宮司の安全祈願祭が執り行われ、参列者が見守るなか、前田組合長が鍬入れ、施工者代表が地鎮の儀を、続いて玉串奉奠などが行われ、工事の無事完成を祈りました。

また、栗川市長始め来賓の皆様より挨拶を頂き、いよいよ新設工事が明年五月完成を目指し始動しました。

これらの新設工事は、合併当初から組合運営合理化計画のひとつとして、現在の那須高原CSと西那須野CSを統合し施設の合理化を図るために策定したものです。

県北地域合理化検討協議会、建設委員会、理事会において三ヶ年に亘り慎重な協議を重ねて来たところですが、このたびプラント関係の補助事業対象が確定し着工の運びとなりました。

施設概要

場所 黒磯市下厚崎の自所有地

(国道四号線、黒磯バイ

パス下厚崎陸橋側)

面積 一・二ヘクタール

能力 日量 三五〇t

貯乳タンク 六〇t 二基

三〇t 四基

受乳場 同時四台受入

送乳場 同時三台積込

車両進行 ドライブスルー方式

車両洗浄 CIP全自動



那須高原CS・支所建設地

制御方法

自動制御による集中コントロール(受入・積込・冷却・CIP)

設計管理 JA全農とちぎ

設計管理 JA全農とちぎ

設計管理 JA全農とちぎ

土木工事 東昭建設(株)

排水工事 森永エンジニアリング(株)

プラント ヤスタファインテ(株)

建物 小池建設(株)

支所 小池建設(株)

工事費 概算六億九千万円



天皇、皇后両陛下 小針牧場を視察

天皇、皇后両陛下は九月十七日、本組合員、黒磯市の小針牧場を視察にご訪問されました。

両陛下は、牧場主の勇氏、後継者の勤さんの案内で場内を一周され、時折、乳牛の管理法や牛舎の構造、給与している飼料等について興味深く質問されたそうです。

圃場では、圃場の位置・面積・栽培作物名等の説明の後、デントコーンの生育状況もご覧になりました。場内を視察された後は客室において、家族及び地元の栗川仁黒磯市長、山口幸志県畜産振興課長が臨席し、地域の自然や酪農現況、



案内する牧場主勇氏(中央)と勤さん(右)

全共とちぎ開催にも触れご歓談されました。準備された料理、牛乳も試飲され、大変喜んで

でおられたようです。

また、お帰りの際には、両陛下より「これからもお体を大切に頑張ってください」と励ましのお言葉を戴き、家族の皆さん大変感激されておりました。

尚、小針氏は両陛下の訪問に際し、関係機関並びに青木支部員・青年部員の皆様に、特段のご協力をいただいたことに感謝を述べられておりました。当家を始め近隣の皆様には諸準備等大変ご苦労されたことと察しますが、小針家の歴史に永遠と刻まれることと念じます。

小針牧場

住所 黒磯市青木六七七
経営者 小針 勇
飼養頭数 百七十四頭
日 量 約三千kg(一〇月)



親子酪農・乳業体験ツアー ふれあい牧場を起点に開催中

県学乳供給事業推進協議会が主催する「親子酪農・乳業体験ツアー」が開催されました。

昨年より開催されているこのツアーは、親子で参加して頂き、酪農の体験と毎日学校で飲んでいる給食用牛乳の生産工程について学んでもらい、同時に本県が生乳生産第二位であることを知って頂く企画で、今年度は二回(九月二十五日・十月二十三日)開催されます。



酪農体験は自然豊かな「酪農とちぎふれあい牧場」で行い、搾乳体験・牛達との記念撮影・バター作り体験等を行いました。昼食は、自分達で作ったばかりのバターをパンに付けて味わい、ふれあい牧場施設内でバーベキューを食しながら、担当職員より牧場の概要や牛乳の生産工程についての説明を受け、正しい牛乳の知識を学んで頂きました。子供達が親と一緒に牧場内敷地を元気に走りまわる光景が見

られ、満足されたことと思います。

また、乳業工場見学は、栃木明治牛乳㈱の協力を得て行われ、牛乳が製品になるまでを牛乳博士(職員)等と質疑応答しながら見学しました。参加した子供達は、建物と貯蔵タンクの大きさ、製造ラインから送り出される製品の量に驚かれました。組合では、このイベントを通じ、牛乳の「新鮮・安心・安全」のアピールと、消費拡大につながるよう今後も協力して参ります。

なお、九月二十五日に参加された方々のアンケートの結果は、次のとおりです。

酪農体験について

- ・乳牛は温かく、大きかった。
- ・牧場は広々とし気持ちよかったです。
- ・バター作りは面白く、作ったバターが美味しかった。

・乳牛について、新たに理解したことがあった。

乳業工場について

- ・衛生管理はしっかりしていた。
- ・危機管理(安全・安心)の取り組みを見て安心だと感じた。

親子体験ツアーについて

- ・ツアー参加し満足した。
- ・酪農・乳業・牛乳の認識が良くなった。



猛暑に負けず生乳二・五%増産 上半期順調に推移

組合事業は、九月末日を以て上半期が経過しました。今年は十年ぶりの酷暑の夏となり、皆様には飼養管理等に大変ご苦労されたことと思いますが、簡潔に進捗状況をお知らせいたします。

生乳生産量は、飼養戸数・頭数の減少等により、全国的に低迷しております。ちなみに、全国では前年比九九・〇%、関東一〇〇・

七%となっております。

本組合は、十万八千三百五十一トと前年比一〇二・五%、計画比一〇〇・四%の増産が達成できました。本組合の伸びている要因は、公社牧場事業による規模拡大・増産意欲・個体能力向上・暑熱対策等の努力が奏功した表れと察します。

また、懸念する脱脂粉乳の在庫量は、製造量の減少と需要が増加したことから、七月末においては九万二千八百トとやや減少しております。

市乳販売は、猛暑に相乗し売上増を期待しましたが、茶系の飲料品は伸びたものの、飲用牛乳類は、相次いだ台風の上陸による天候不順も影響し、期待外れの結果となりました。

市場は依然として低価格競争が

続けられ、各方面とも苦戦が強いられた中で、売上本数九十七万三千本、前年比八五%、計画比八三・一%の厳しい実績でした。東京明販(株)を中心に、各量販店と拡販に努めています。このたび、県北の道の駅「青木」と「伊王野」、那須ハイランドパークにおいて、那須だいき牛乳を発売開始しましたので、是非、友人知人等へのPRと拡売にご協力をお願い申し上げます。

経済事業は、組合購買利用を推進した結果、濃厚飼料五万八百七十七ト(前年比九九・二%、計画比九七・七%)、粗飼料二万七千八百三十六ト(前年比一〇五・二%、計画比一〇〇・五%)の供給量となりました。

配合価格につきましては、既報のとおり十月よりトン当たり三千三百円の値下になりますが、安定基金からの補填がなくなりますので、末端価格は実質千五百円の値上となります。

指導事業は、十一月から完全実

施されます「家畜排せつ物法」に対応するため、各戸巡回により施設の確認と整備推進を行いました。また五月には、中国酪農研修生八名を受け入れし、現在六戸の牧場で研修を積んでおります。導入事業は初妊牛価格が依然として高値市況から思うように進まず、百二十六頭と前年を下回っている状況です。

組織活動につきましては、地域酪農組合を中心に、青年部・女性会とも計画に沿い実施しております。

牧場事業は、今年から本組合が管理しております県有土上平牧場と、ふれあい牧場との併行利用により後継牛づくりに努めました。

また、預託者の希望に応じ、受精卵移植を実施しました。

資本造成第二年度は、各位のご協力により一億三千七百万円の増資を図ることができました。

施設計画につきましては、新那須高原CS・支所起工式を行い、本格的な工事が始まりました。



本組員8名がロボット搾乳を導入しています



乳牛飼養動態調査より

九月一日現在の乳牛飼養動態調査がまとまりましたので、お知らせします。

出荷者は七〇三戸でした。期中の酪農中止者が二〇戸でしたが、新規加入（組合移動含む）が五戸あり、出荷戸数の減少は十五戸（二・一％）でした。高齢化、後継者不足、病気等による酪農中止が多く、労力不足が主たる理由となっております。

飼養頭数は、三八七八〇頭と前年より二八四頭（〇・七％）減少しました。一戸当りの飼養頭数は、五五・二頭（〇・八頭増）になりました。

内訳を見ますと、経産牛が二六七九二頭であり、二八頭の減少に留まりました。未経産牛（初妊牛・育成牛・外部預託牛）については、二五六頭（二・一％）減少し、保有率が三〇・九％（〇・四％減）となりました。

経産牛頭数が二八頭減に留まっ

た要因として、酪農中止による二八一頭の減少がありました。新規加入等により二三四頭増加したことが考えられます。しかしながら、依然として、初妊牛高騰等により乳牛更新が進まないこと、後継牛確保が遅れていることが推察されます。

経産牛頭数が前年並みにも関わらず、上期生乳生産量が増加（一〇二・五％）した理由として、昨年は冷夏であり、成牛のストレスが少なく、受胎率が良かったと推察されます。

未経産牛では、初妊牛が六四頭減少し、育成牛が二六五頭減少しています。引き続き、公共牧場等を活用した後継牛確保に努めて下さい。分娩予定頭数については、一二二・三二頭（三三頭増）であり、概ね前年並みでした。下期の生乳生産量も、前年並みに推移するものと思われ。

年々、経産牛頭数は減少傾向にあり、生乳生産量の低下が懸念されます。遺伝的能力の改良により、一頭当りの年間乳量は向上していきます。しかし、安定した生産基盤

乳牛飼養動態調査表

平成16年9月1日現在

支所別	調査年月	出荷者数	飼養頭数							1戸平均飼養頭数	月別分娩頭数						
			成牛				育成牛未種付牛	外部預託牛	合計		9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
			搾乳	乾乳	初妊	小計											
那須高原支所	H16.09	417	13,540	2,100	2,092	17,732	4,243	1,179	23,154	55.5	1,172	1,162	1,248	1,280	1,277	1,138	7,277
	H15.09	426	13,494	2,207	2,210	17,911	4,406	1,159	23,476	55.1	1,235	1,114	1,162	1,259	1,234	1,192	7,196
	増減	-9	46	-107	-118	-179	-163	20	-322	0.4	-63	48	86	21	43	-54	81
宇都宮支所	H16.09	132	3,831	616	722	5,169	1,365	367	6,901	52.3	354	343	368	391	377	323	2,156
	H15.09	134	3,765	688	703	5,156	1,415	373	6,944	51.8	387	377	372	378	381	341	2,236
	増減	-2	66	-72	19	13	-50	-6	-43	0.5	-33	-34	-4	13	-4	-18	-80
栃木県南支所	H16.09	154	5,923	782	624	7,329	1,047	349	8,725	56.7	514	511	444	484	464	382	2,799
	H15.09	158	5,796	870	589	7,255	1,099	290	8,644	54.7	443	559	495	474	447	349	2,767
	増減	-4	127	-88	35	74	-52	59	81	1.9	71	-48	-51	10	17	33	32
合計	H16.09	703	23,294	3,498	3,438	30,230	6,655	1,895	38,780	55.2	2,040	2,016	2,060	2,155	2,118	1,843	12,232
	H15.09	718	23,055	3,765	3,502	30,322	6,920	1,822	39,064	54.4	2,065	2,050	2,029	2,111	2,062	1,882	12,199
	増減	-15	239	-267	-64	-92	-265	73	-284	0.8	-25	-34	31	44	56	-39	33

を確保する為には、計画的な後継牛確保・導入が重要です。併せて、カウコンフォート・疾病予防対策

による飼養環境・管理改善が大切です。これらに取り組み、生産性向上に努めるようお願いいたします。



部課だより

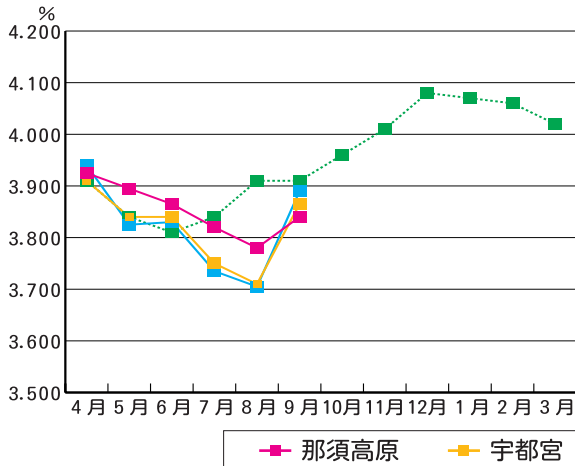
生乳販売部

堅調な生乳生産続く！

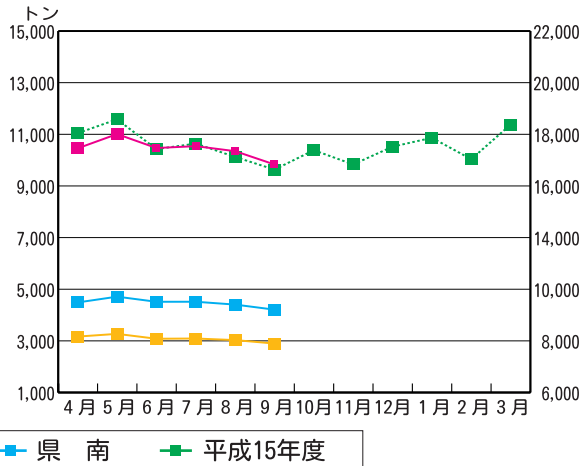
四月以降、生乳生産は前年を上回る堅調な生産が続いており、最需要期である九月についても前年を大幅に上回る生産（前年比一〇二％）となりました。上期（四月～九月）までの累計でも一〇二・五％と前年を大きく上回る生産となっており、組合員の乳牛飼養管理技術の向上、暑熱対策の進展、大規模経営者の増頭等によるものと推察されます。

都府県においては八月については〇・六％減と減少傾向となりましたが猛暑の割には減少幅が縮小となりました。関東は一〇二％と栃木県・群馬県・千葉県・東京都が前年を上回ったことから大幅な

◆ 脂肪率の推移



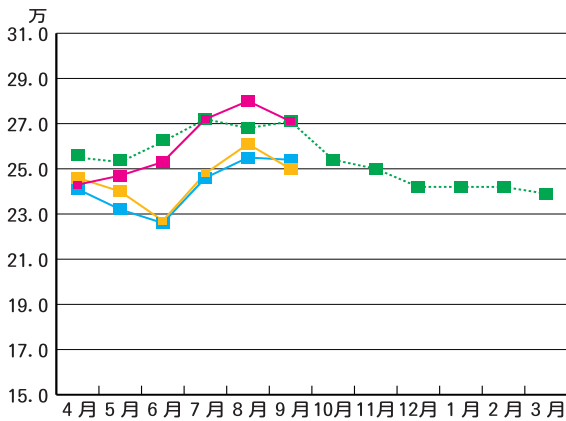
◆ 乳量の推移



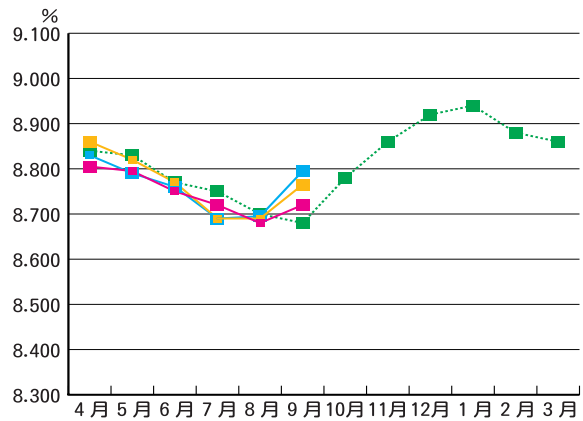
伸びとなっております。

一方、用途別販売実績は、飲用

◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



牛乳向けが九九・九％と前年を若干下回ったものの、醗酵乳等向け

が一〇七・一％と伸びたことから飲用牛乳等向けは一〇〇・五％と前月に引き続き前年を上回っています。しかし、今年の猛暑の割には期待した伸びとはならず、八月中旬以降は台風等の影響でむしろ前年を下回った状況にあります。

特定乳製品向けについては、生産が前年を下回り飲用牛乳等向けが前年を上回ったことから九四・五％と減少となりました。

乳質成績は、第一四半期については無脂固形分率・脂肪率ともほぼ前年並の成績でしたが、七月以降は猛暑の影響が脂肪率が約〇・一％低下、無脂固形分率については前年並み、細胞数については八月が前年を下回ったものの九月は一万強向上する好成績となりました。

九月迄の乳量及び乳質成績は上記のとおりです。



酪農部

「酪農青年との出会い」 開催

十月十日(日)宇都宮ホテルコンセールにて、酪農青年との出会い」が開催されました。昨年に引き続き二回目となる今回は、企画から参加者の募集・準備まで、全て青年部の手作りで開催しました。

その甲斐があり、青年部員二十六名、女性二十九名と昨年以上の参加がありました。

台風による影響を考慮し、急遽会場を、ふれあい牧場からホテルコンセールに変更しましたが、「借り物ゲーム」や「ジャンケンジェンガ」などのゲームやトーク&トークを通じ、大変盛り上がり、大変盛りました。最初は、



司会の金田修一氏

最初は、



恥ずかしがりながらゲームをしていましたが、徐々に緊張がほぐれ、お喋りをしながら楽しんでいました。トーク&トークでは、話題が尽きず、席替えをすることが申し訳ないと思うほどでした。夕食フリータイム)では、二人でお喋りを楽しんでいたりと、グループで盛り上がりつつあるテーブルがあったり、会場の雰囲気は大変良く、話し声や笑い声が絶えませんでした。



マッチングでは、六組のカップルが成立し、植木青年部長より記念品がプレゼントされました。参加者は、楽しい一日を過ごされた事と思います。

スタッフの皆様には、パーティー実施に多大なるご協力を頂き、ありがとうございました。今後とも継続実施して参りますので、ご協力をよろしくお願い致します。

9月ホクレン初妊牛市場成績

(単位:頭,千円(税込))

市場名	開催日	成立頭数	平均価格	~350	351~400	401~450	451~500	501~550	551以上
十勝	9月8日	386	489	11	20	66	146	93	50
釧路	9月15日	257	455	8	26	68	111	41	3
根室	9月16日	470	481	4	19	84	209	131	23
豊富	9月17日	314	459	4	36	86	124	60	4
北見	9月22日	450	487	9	26	90	143	104	78
十勝	9月27日	466	478	8	43	98	152	115	50
合計		2,343	478	44	170	492	885	544	208
前月		1,725	489	21	85	285	632	554	148
前年同月		2,422	485	46	130	412	846	762	226

家畜市場成績

平成16年10月

(単位:円(税込))

市場名	種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均
西那須野 十五日	ホルス雄	112	-	55,650	1,050	31,738
	F1雄	86	-	194,250	30,450	132,031
	F1雌	62	-	136,500	46,200	73,077
館林 十七日	ホルス雄	8	66	50,000	14,000	40,500
	F1雄	3	71	172,000	115,000	147,333
	F1雌	20	73	124,000	80,000	101,850



理事会だより

九月度理事会

報告事項

- (一) 資金貸付について
 - (二) 九月分生産者支払乳価について
 - (三) 那須高原CS・支所建設に伴う入札結果について
 - (四) 乳牛飼養動態調査報告について
- 協議事項
- (一) 八月度事業実績について

ハーフ・タイム



台風二十三号も、本県直撃を避け安堵したが、過去十年で最大の被害となつてしまった。本土上陸数は十ヶと観測史上最多を記録し、各地に甚大な被害をもたらしたばかりでなく、多数の尊い人命までも奪った。被災者の皆様には謹んで被災お見舞い申し上げます。

台風の本土上陸原因は定かでないが、台風は発生源となるフィリピン沖付近の海温が高くなると多発するそうです。また、大陸性高

- (一) 資金貸付について
- (二) 診療業務について

お知らせ

「栃木県ホルスタイン共進会」開催

県酪連主催による第十七回栃木県ホルスタイン・第一回ジャージー共進会が開催されます。

開催日時

平成十六年十一月三日(水・祝日)

開催場所

全共開催地

気圧と太平洋高気圧との拮抗、偏西風の進行方向が台風進路に影響するようです。

今年も米・果樹の盗難事件が報じられたが、今度は、県内でハウ用燃料の「重油ドロボウ」が多発していると聞く。厳しい農業経営の経費節減策と、折角値上げ前に備蓄した燃料を抜き去るとは。横行している犯罪のもつひとつ「オレオレ詐欺」。身内を装って夫・子・孫がトラブルに巻き込まれたように見せかけたり、架空料金や借入返済金の振り込みを請求したりする詐欺があつてはならない。

壬生町羽生田地内県有地
出品頭数

ホルスタイン 百二十頭

ジャージー 十五頭

「酪肉研第十四回乳用種 経産牛枝肉共励会」開催

全酪連傘下組合で構成する関東甲信越酪農経営技術研究会(酪肉研)主催の枝肉共励会が、以下の日程で開催されます。つきましては、出品申込み取りまとめを行ないますので、奮って出品されるよ

自分は大丈夫と言いつつも、ついに被害者となるケースが多いようだ。家族揃つての再確認を是非。いずれにしても、盗難対策は自己管理しかありません。倉庫・搾乳室(犬猫進入防止)の施錠と、車・トラクターのキー抜き取りを。今、注目している「BSE全頭検査の見直し」。国は、食品安全委員会のとりまとめを受け、二十ヶ月令以下を検査対象から外す方向の議論が行われておりますが、消費者からは、不安や不信感が高まっております。過去の経験を踏まえ慎重な対応を願うものです。(Y)

うお願ひします。

開催日時

平成十六年十二月四日(土)

午前十時三十分～午後二時まで

開催会場

茨城県結城市

筑西食肉衛生組合食肉センター

出品牛 乳用種経産肥育牛

枝肉重量三五〇キロ以上

出品頭数 概ね四十頭

申し込み方法

十一月十五日(月)までに、支所・事業所までお申込み下さい。

パソコン一年生 インターネットの危険性

二〇〇三年夏にはBlastと呼ばれるウィルスが蔓延し話題をよびましたが、一人一人がセキュリティ対策をし、被害を抑えることが必要です。具体的には、ウィルス駆除ソフト・不信なメールは開かない・怪しいサイトは避けるなどが最低の防御です。セキュリティについて疑問点等のご相談がありましたら、以下のメールまでお問い合わせください。可能な範囲でお答え致します。

info@rakunoutochigi.com

